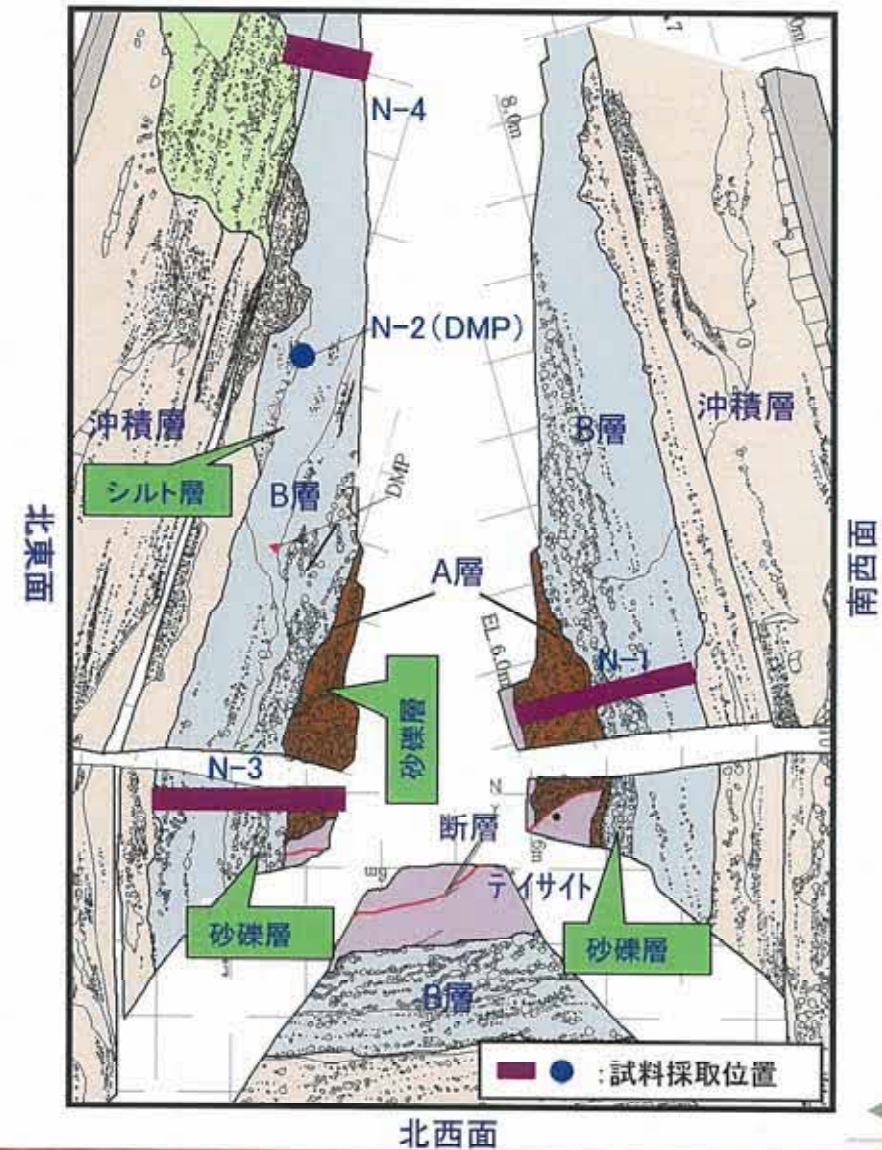
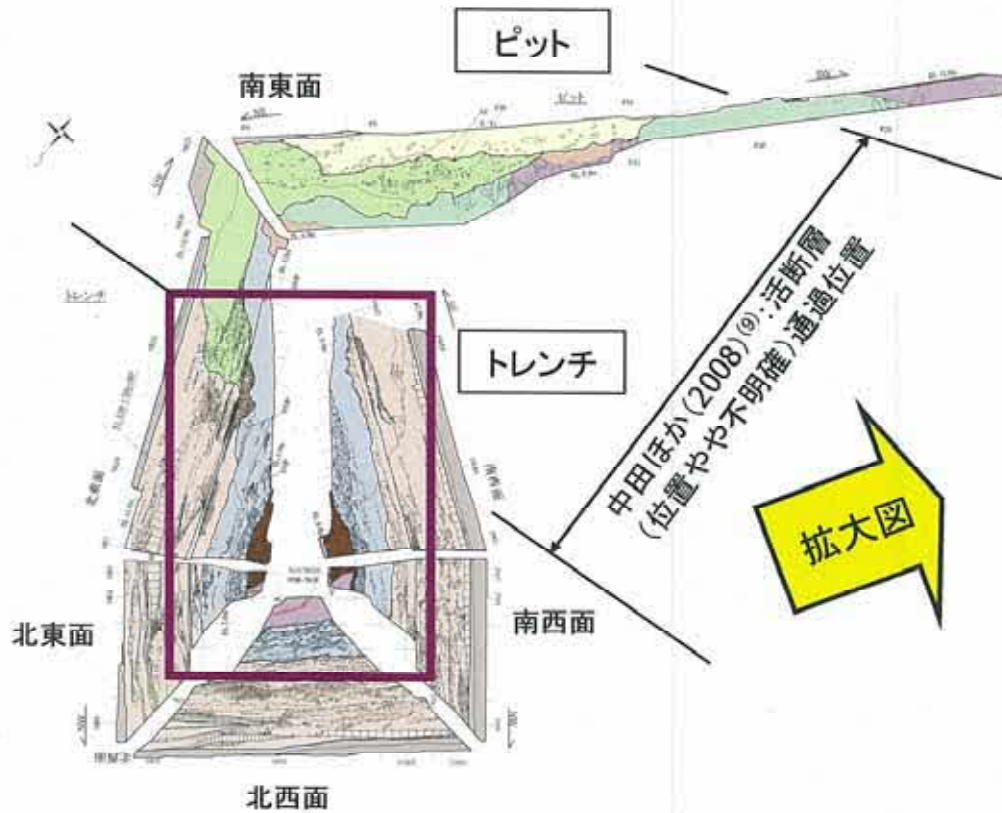
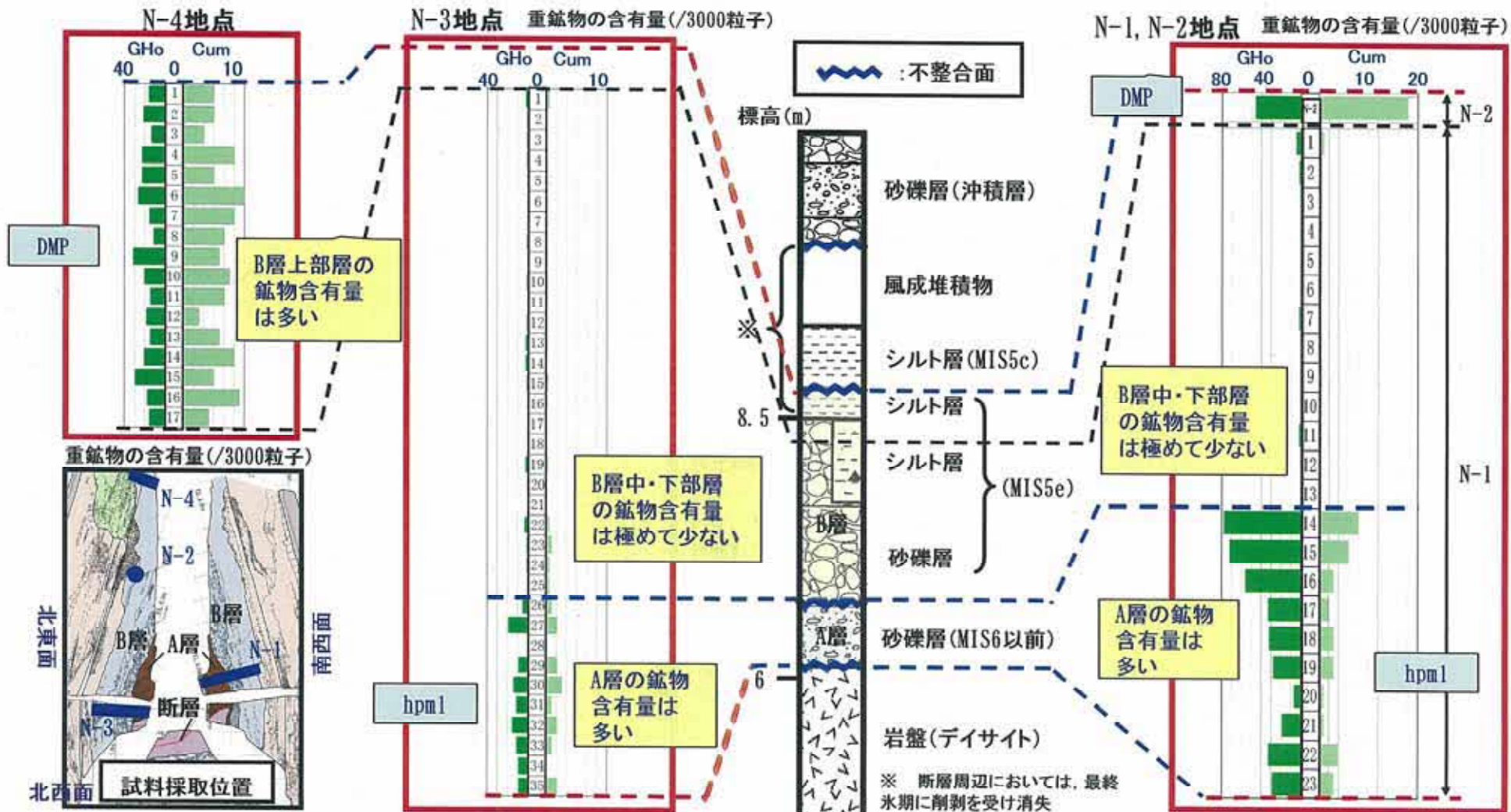


中央断層の東端の検討 下宇部尾北トレンチ



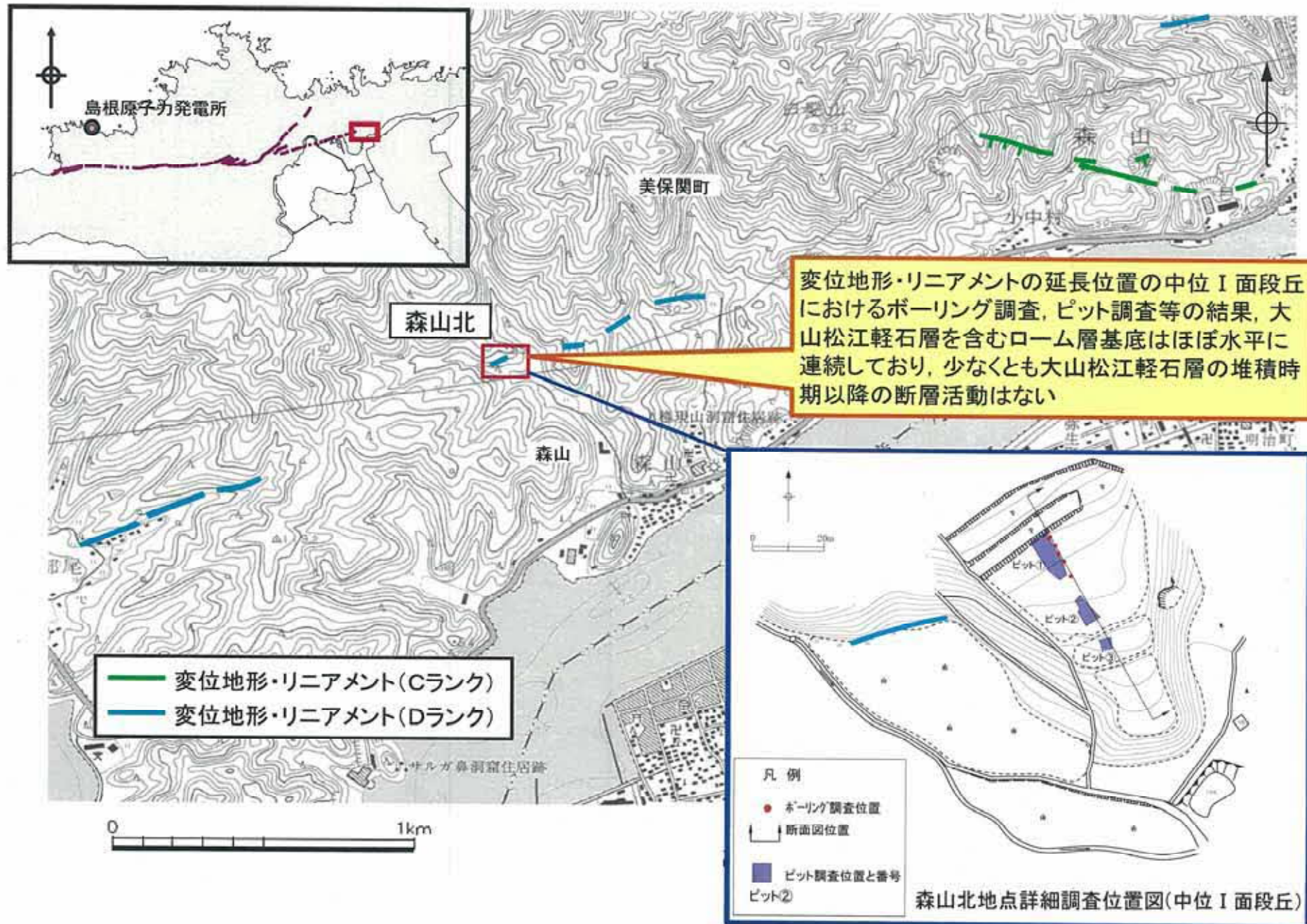
- ・文献に示される範囲において断層は認められないが、基盤(デイサイト)に断層を確認
- ・重鉱物分析、花粉分析等の結果より、A層はMIS6(約13万年前)以前、B層はMIS5e(約11.5~13万年前)の堆積地層と判断
- ・確認された断層はA層(MIS6以前の砂礫層)に変位を与えているものの、上位のB層(MIS5eのシルト層及び砂礫層)に変位や変形が認められないことから耐震設計上考慮する活断層ではないと判断

下宇部尾北トレンチ 地質層序と火山灰分析結果

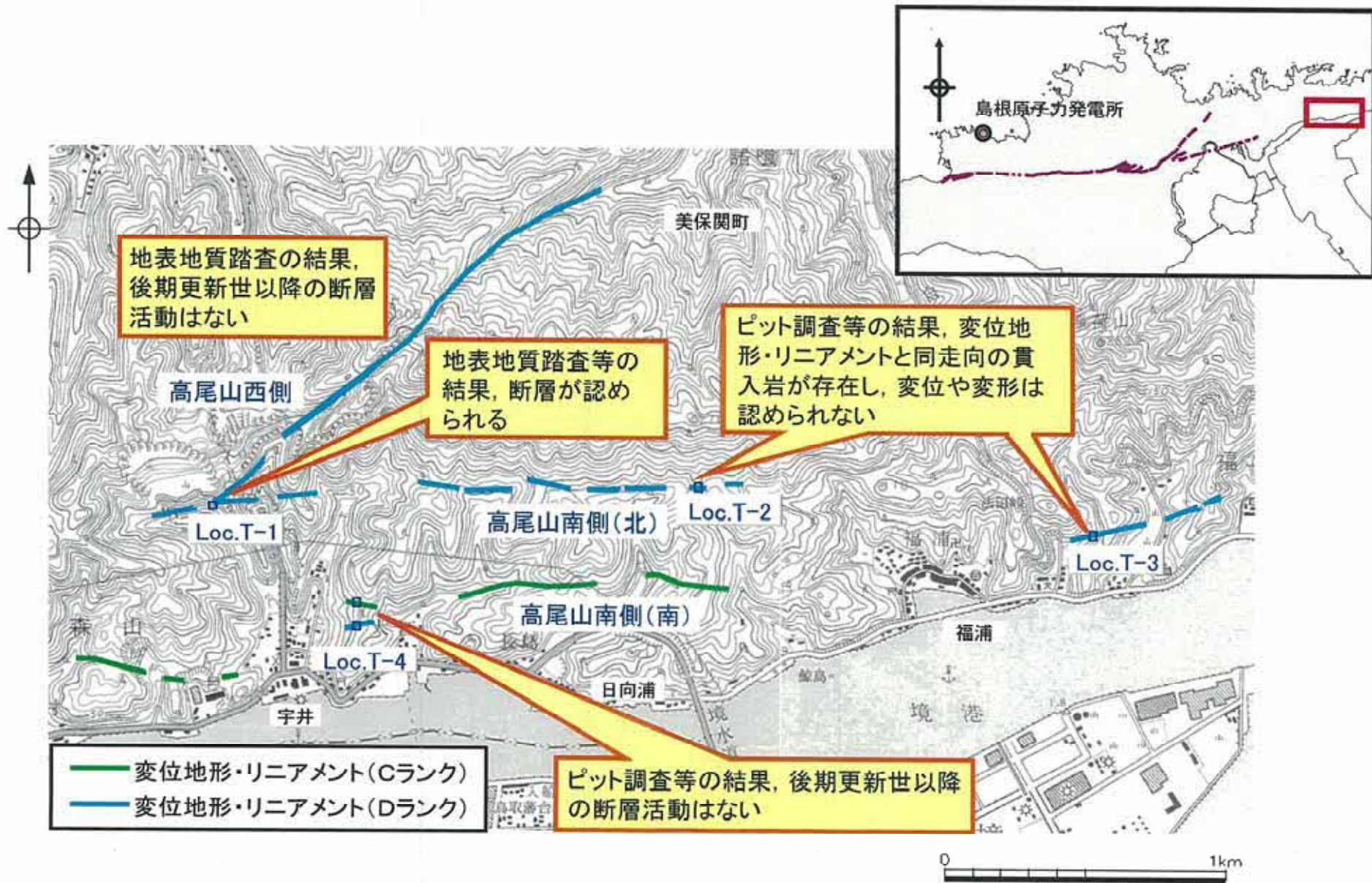


- ・堆積層の層序は、下位のA層が小～中礫主体の砂礫層であるが、B層は中・下部が大礫を含む砂礫層、上部がDMPの降下層準に近いと推定されるシルト層で構成されている
- ・N-1～N-4地点における火山灰分析の結果、A層およびB層上部シルト層は、斜方輝石(Opx)を含まないが、普通角閃石(GHo)、カミングトン閃石(Cum)を多く含み、B層中・下部にはこれらをほとんど含まないことから、A層とB層の堆積時期に時間間隙があると推定

2. 中央断層東部延長の可能性評価 美保関町森山周辺

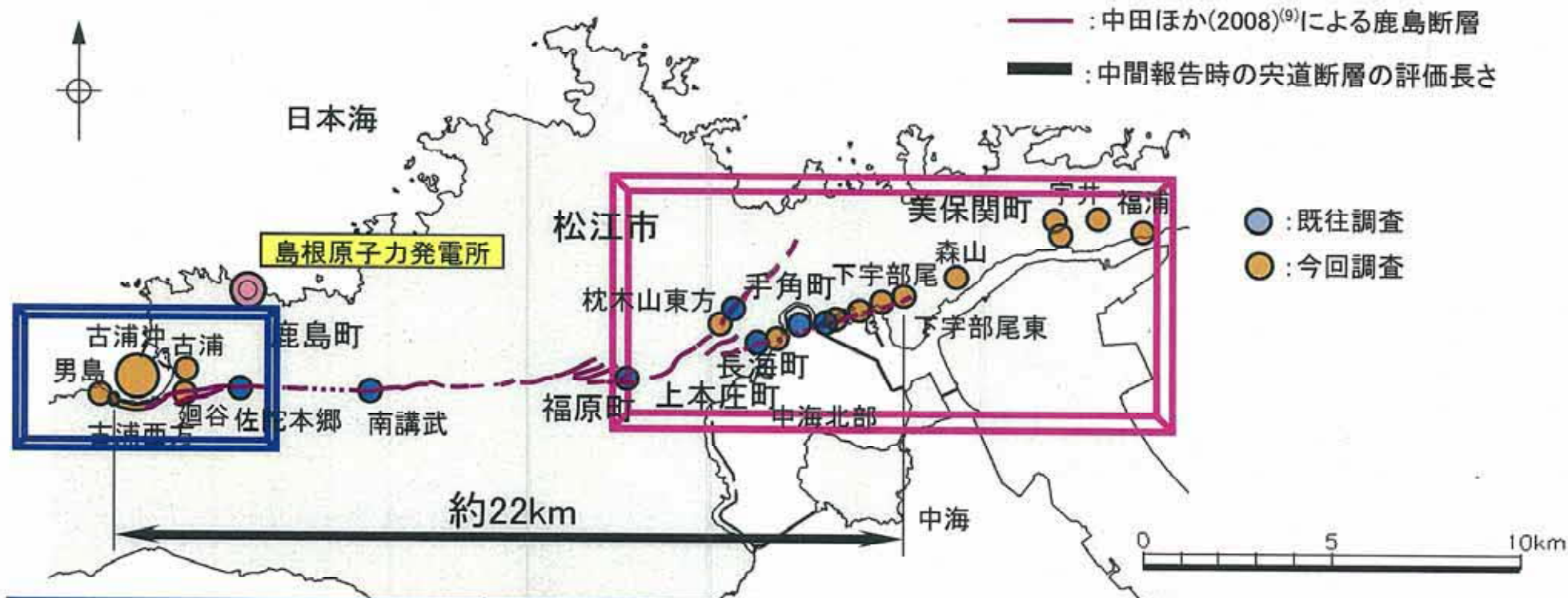


中央断層の東端の検討 美保関町宇井～福浦



2. 突道断層の評価

④突道断層の評価



西端については、廻谷でのボーリング調査等の結果、後期更新世以降の断層活動を否定できないが、

- 古浦西方では変位地形・リニアメントが認められない
- 古浦西方の海岸部では断層は認められない
- 男島付近では変位地形・リニアメントが認められるが、後期更新世以降の断層活動はない
- 古浦沖では断層・褶曲は認められない

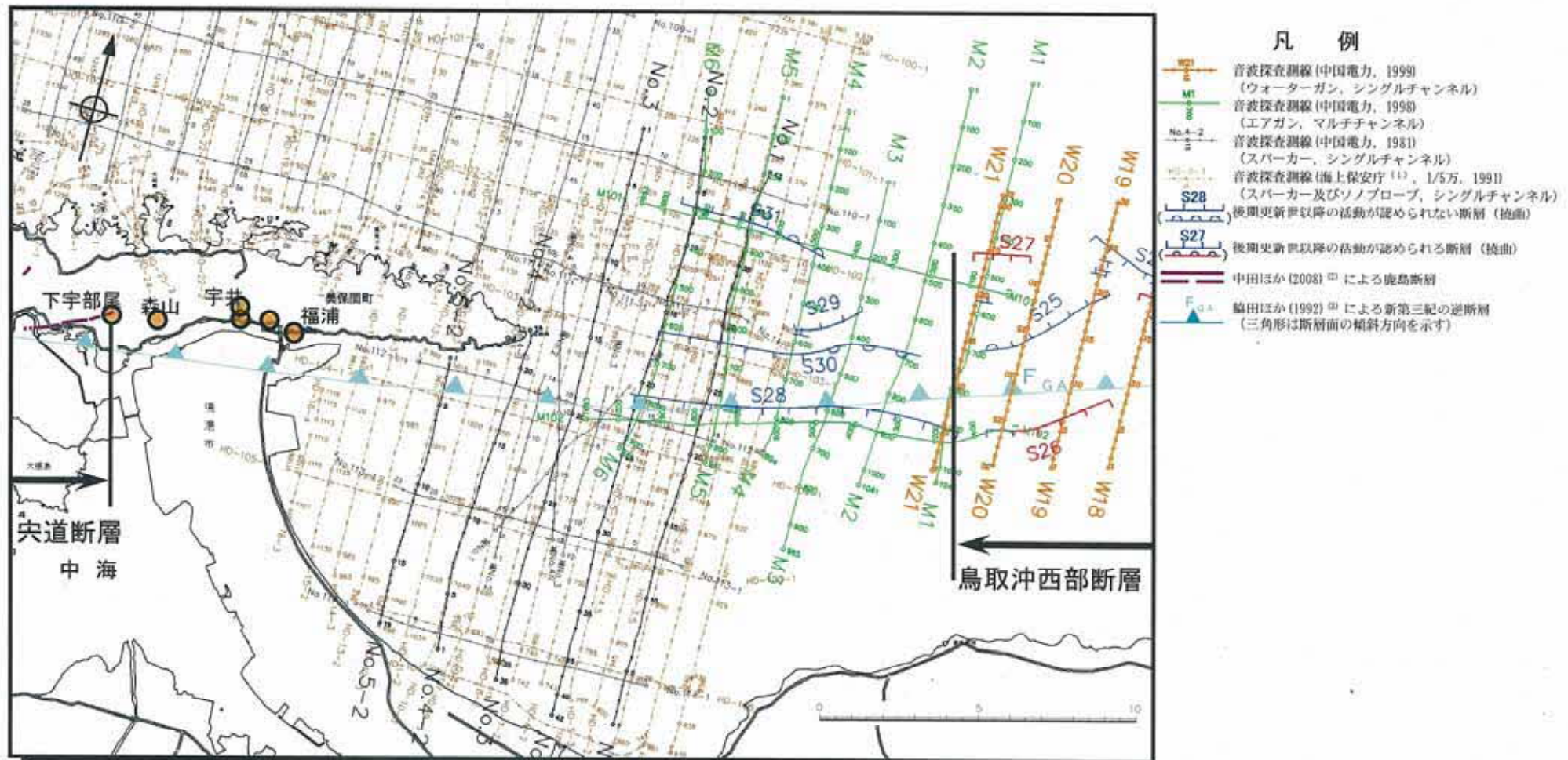
ことから、古浦における変位地形・リニアメント延長上の「古浦西方の西側」とする

東端については、下宇部尾北トレンチにおいて後期更新世以降の活動を完全には否定できないが、

- 長海町以東では、下宇部尾北トレンチを除いて後期更新世以降の断層活動を示唆する変位や変形が認められないことから、断層活動が低下している
- 下宇部尾東では断層が認められない
- 下宇部尾東よりさらに東方の美保関町森山～福浦では、後期更新世以降の断層活動はない

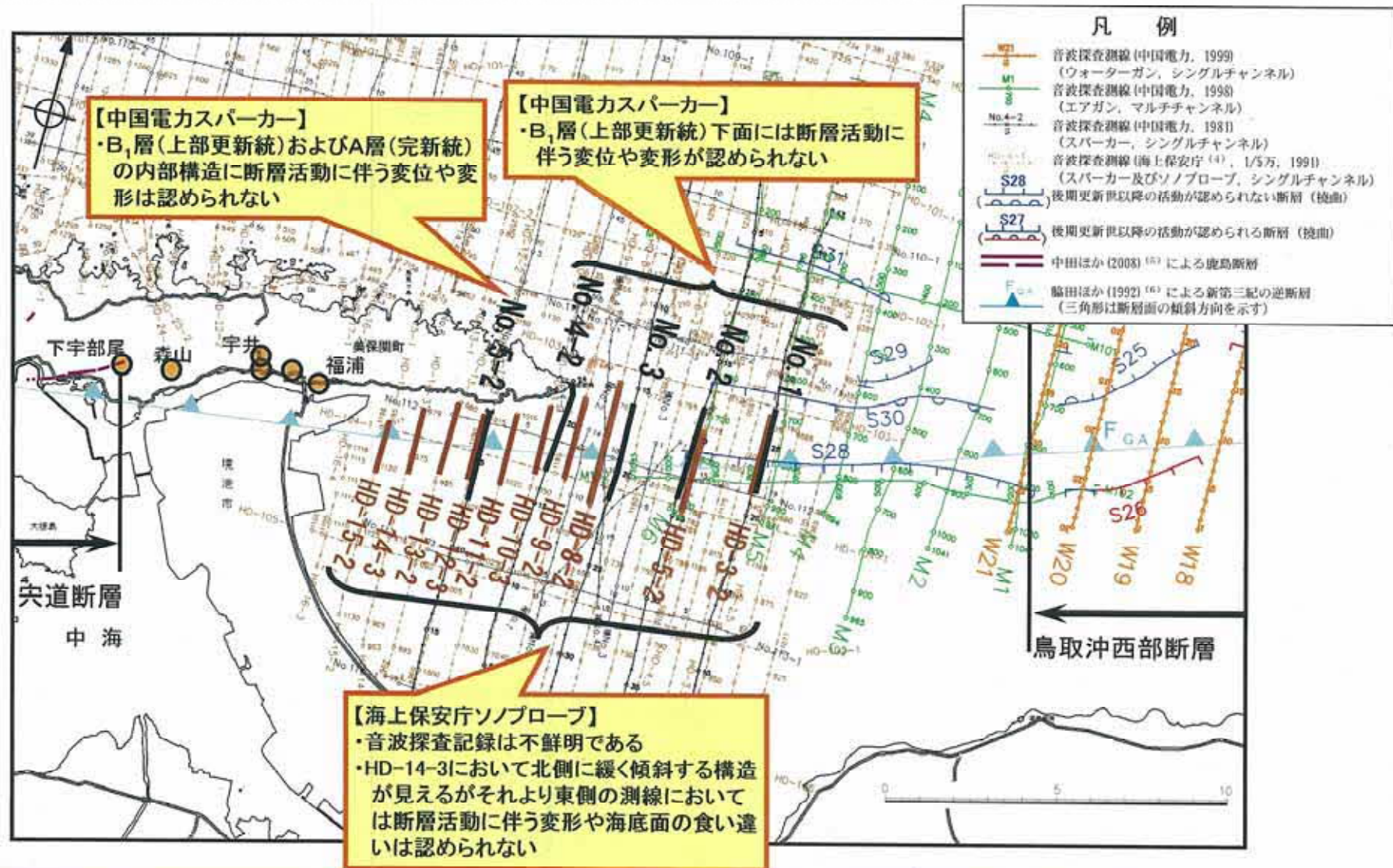
ことから、「下宇部尾東」とする

宍道断層の東方延長（美保関町東方沖合い）の評価



・島根県松江市美保関町東方沖合いにおいて認められる断層等について海上保安庁水路部の海上音波探査記録 (ソノプローブ) も用いて活動性を再度確認

美保関町東方沖合いの活断層評価

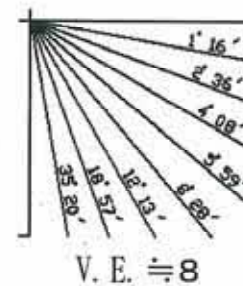
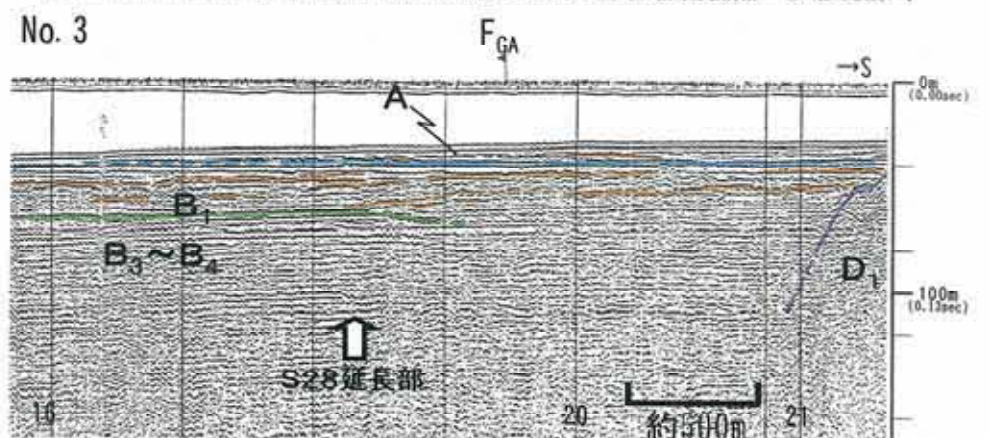
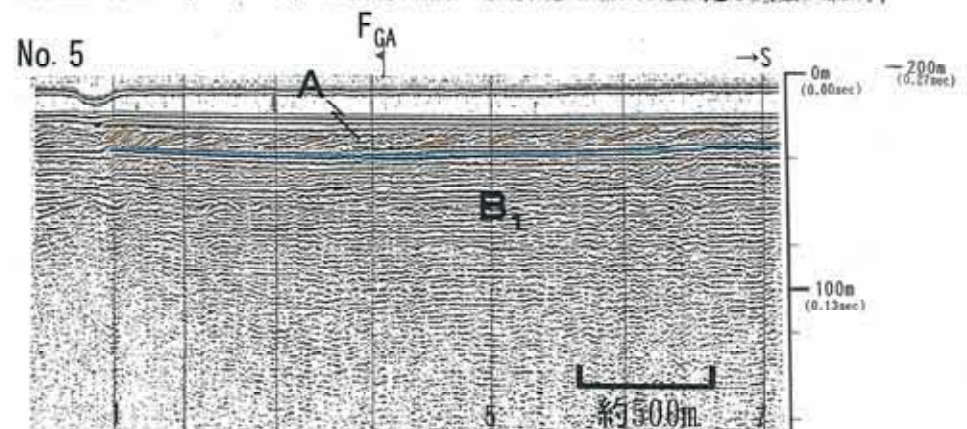
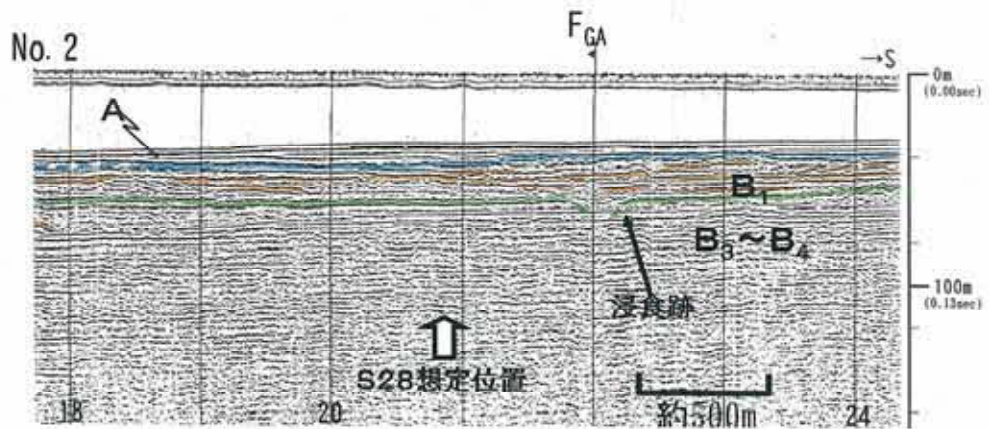
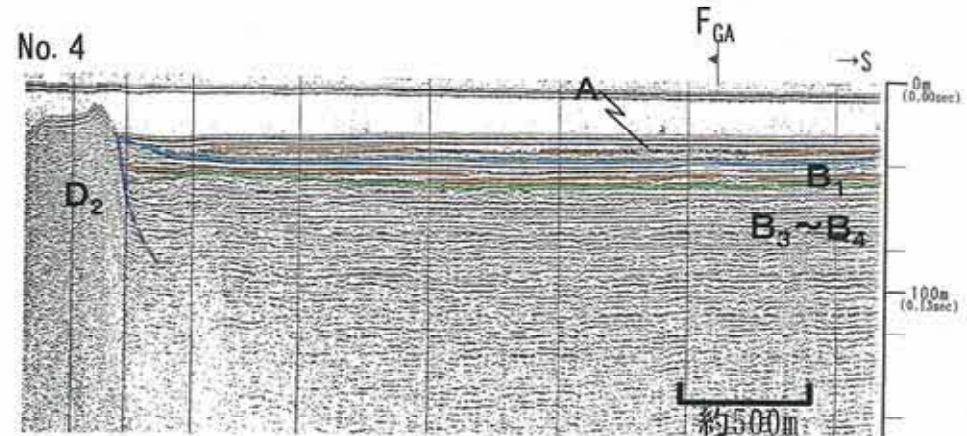
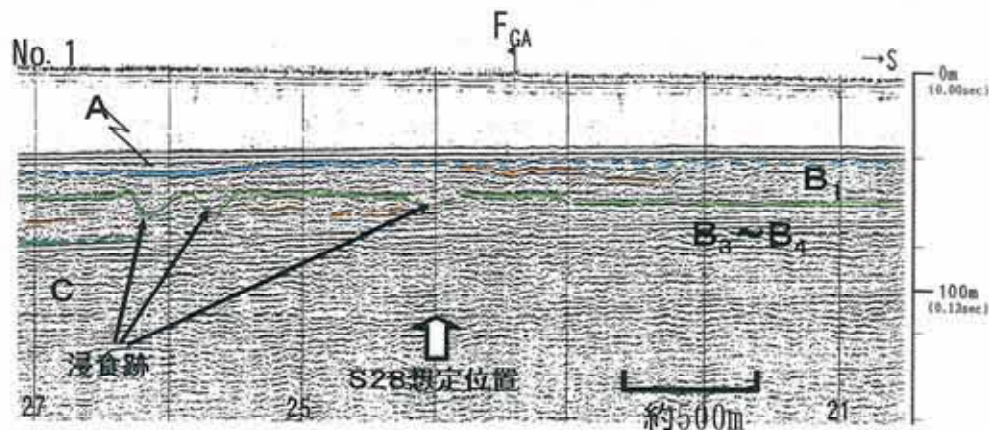


○当該海域の評価のまとめ

- ・中国電力の音波探査記録(エアガン・マルチチャンネル, ウォーターガン・シングルチャンネル, スパーカー・シングルチャンネル)に加えて海上保安庁の音波探査記録(ソノブローブ・シングルチャンネル)により確認した結果, 後期更新世以降の断層活動は認められない

海上音波探査記録(中国電力スパーカー)

美保関町東方沖合い

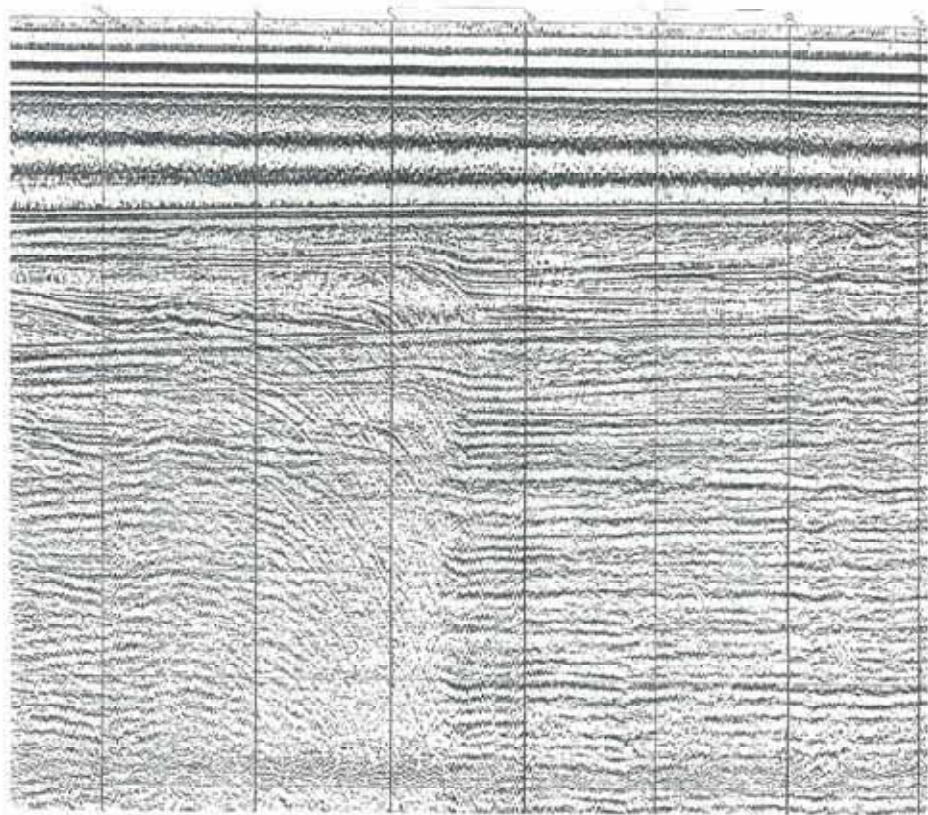


A層	完新統
B ₁ 層	上部更新統
B ₂ ~B ₄ 層	中部更新統
D ₁ 層	中新統

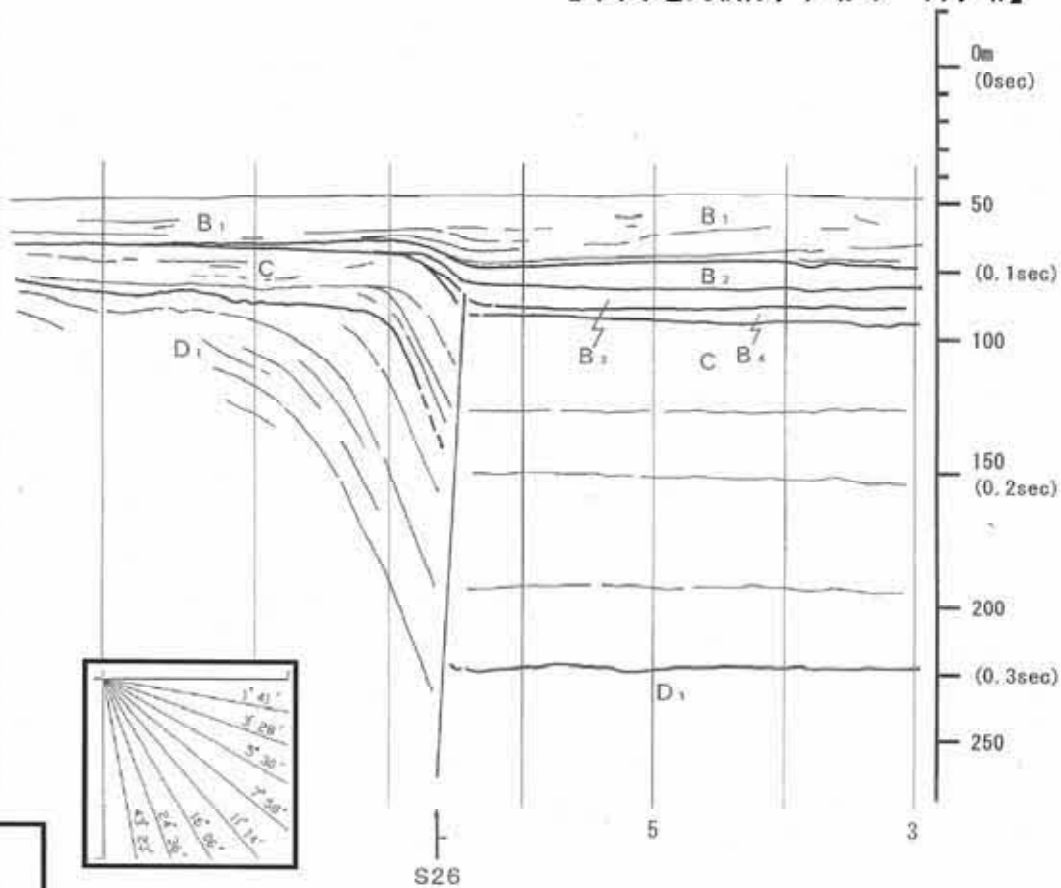
— 内部反射面

穴道断層の東方延長（美保関町東方沖合い）に位置する海域断層の評価
鳥取沖西部断層の代表的な音波探査記録(W19測線)

← N



S → W19
【中国電力(株)ウォーターガン・シングル】

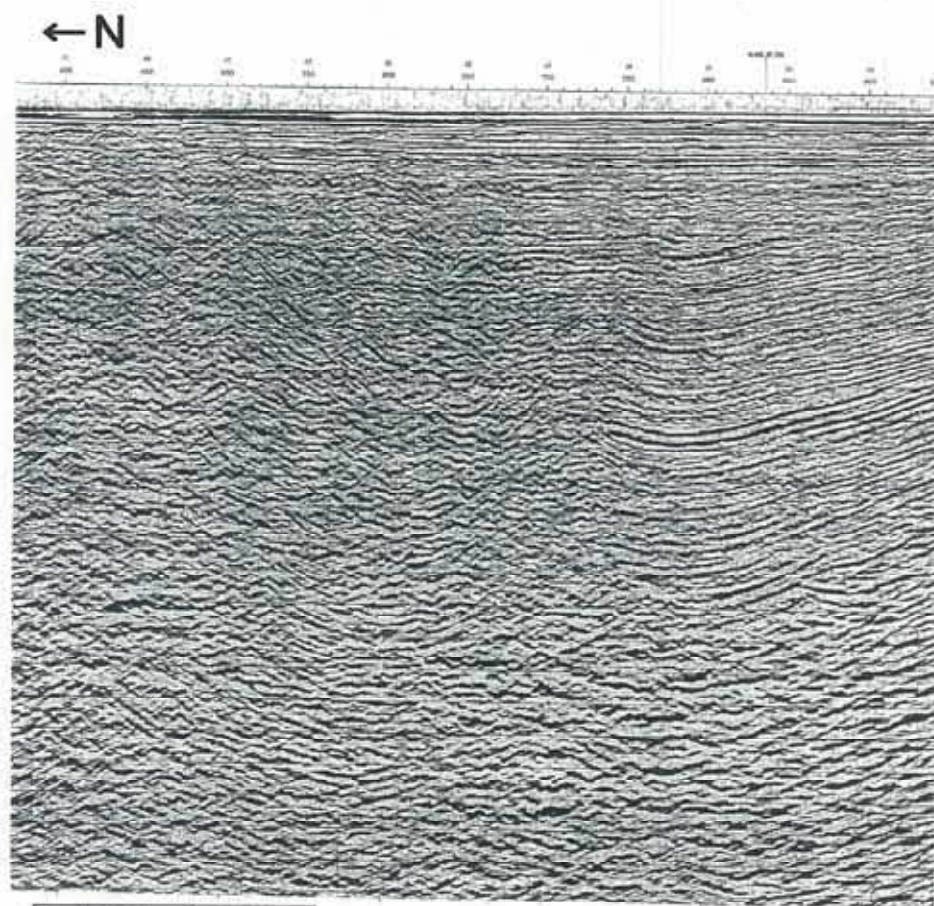

$$V. E. \doteq 6$$

地質時代			地層名	
第四紀	完新世		A	
	更新世	後期	B	B ₁
		中期		B ₂
				B ₃
				B ₄
	前期	C		
鮮新世				
新第三紀	中新世		D ₁	
			D ₂	

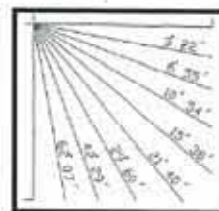
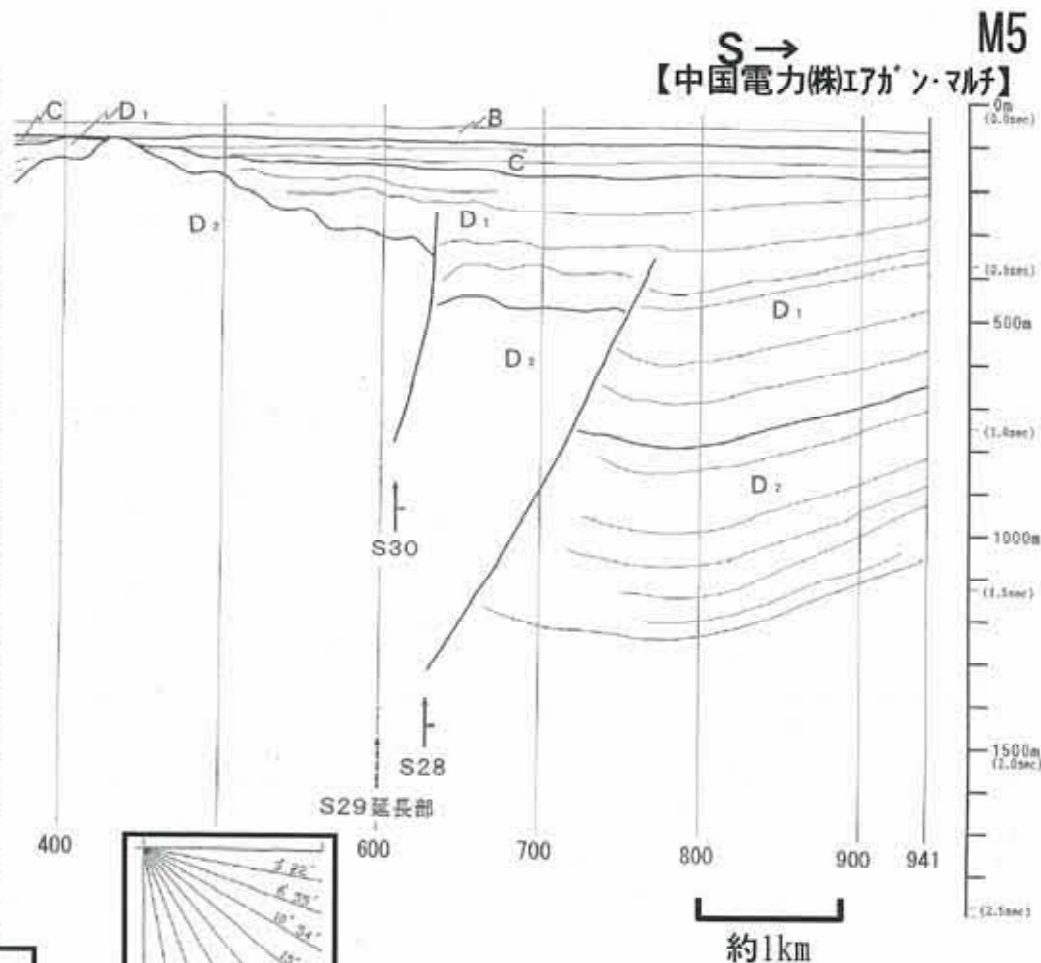
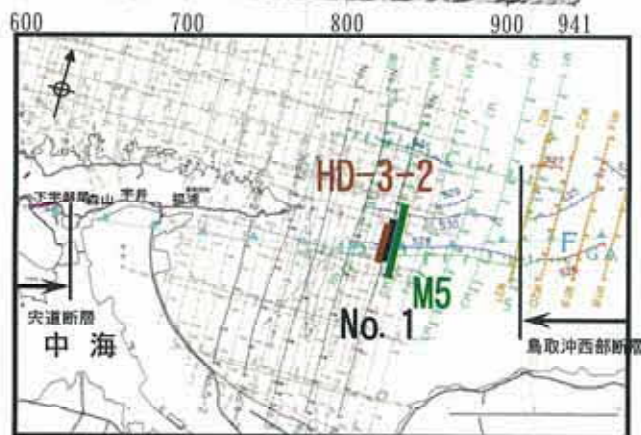


・D₁層(中新統), C層(鮮新統~下部更新統)およびB₄層~B₃層(中部更新統)に変位が認められ, B₂層~B₁層(中部~上部更新統)に変形が認められる

音波探査記録(M5測線)



地質時代		地層名
第四紀	完新世	A
	更新世	後期
		B ₁
		B ₂
		B ₃
		B ₄
	中期	B
	前期	C
新第三紀	鮮新世	
	中新世	D ₁ D ₂



V. E. ≒ 3

・D₂層およびD₁層(中新統)に変位や変形が認められるが、C層(鮮新統～下部更新統)に断層活動を示唆する変位や変形は認められない

調査結果のまとめ

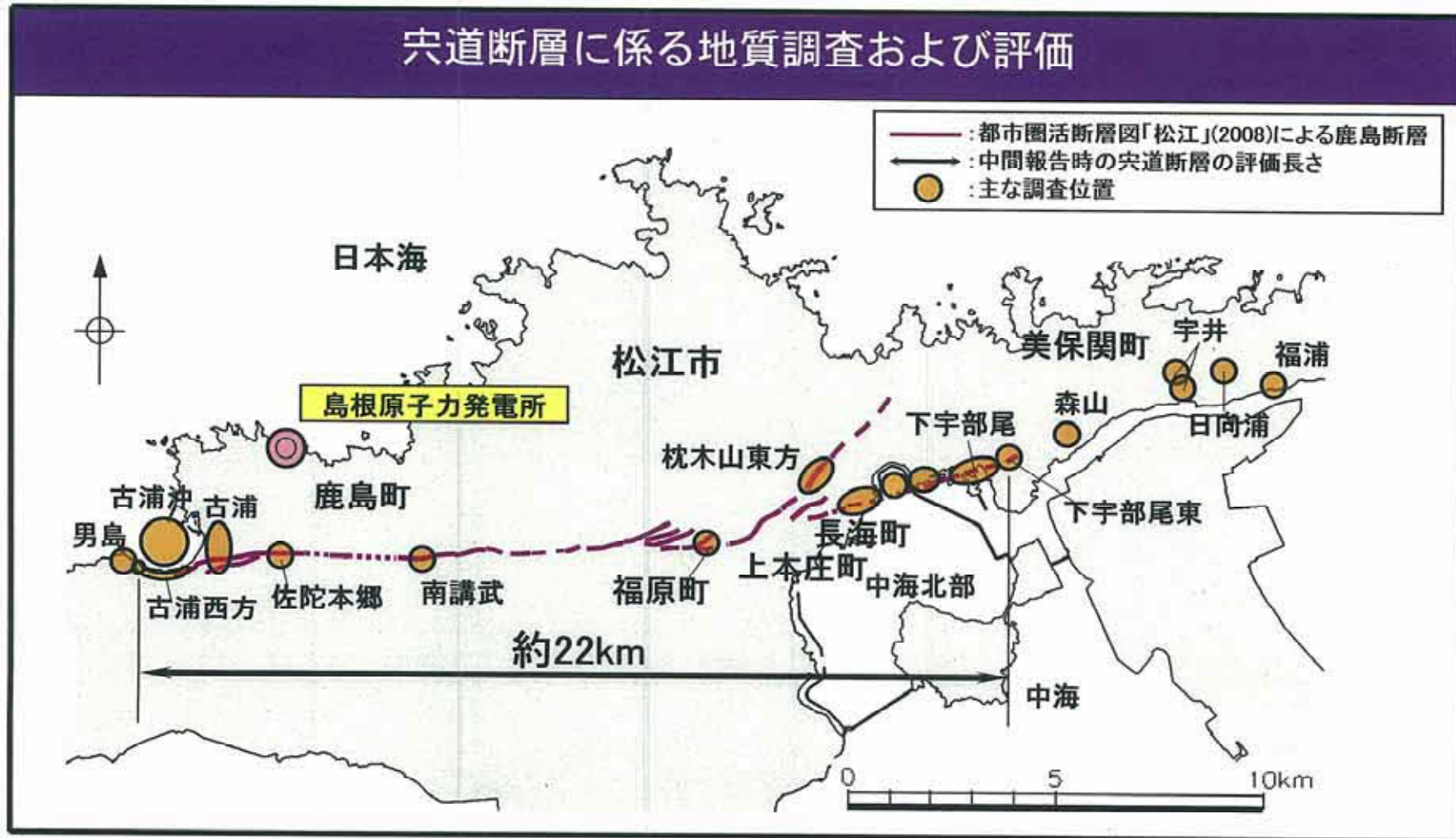


○央道断層東方の活断層評価

- ・央道断層東端と評価している下宇部尾東より東方の美保湾に至るまでの陸域においては、変動地形学的調査、ボーリング調査、ピット調査等の結果、後期更新世以降の断層活動はないと考えられる
- ・さらに美保湾から東方の海域においては、当社および他機関の音波探査記録等により、断層の活動性および長さを評価しており、鳥取沖西部断層の西端よりも西方では後期更新世以降の断層活動は認められない
- ・以上により、央道断層については、海域の活断層とは連続しないと考えられ、耐震設計上考慮する長さとしては下宇部尾東までの約22kmと評価している。

突道断層に係る地質調査および評価（原子力安全・保安院）

- 耐震設計上考慮する西端を、古浦における変位地形・リニアメント延長上の「古浦西方の西側」とする。
○耐震設計上考慮する東端を、美保関町の「下宇部尾東」とする。
○以上のことから、突道断層の耐震設計上考慮する長さを
「古浦西方の西側」から「下宇部尾東」までの約22kmと評価している。



現在までの検討状況

- 陸域・海域の調査品質・判断の確認
- 宍道断層の東端と西端
- 海域地質層序一特に後期更新世の地層の認定の確認など
- 地形・地質調査関連の確認はほぼ終わり
- 検討用地震一特に宍道断層から発生する地震について、断層モデルで不確かさの検討
- 今後も電気事業者には**継続的な調査と新知見の収集、情報の公開**を期待